

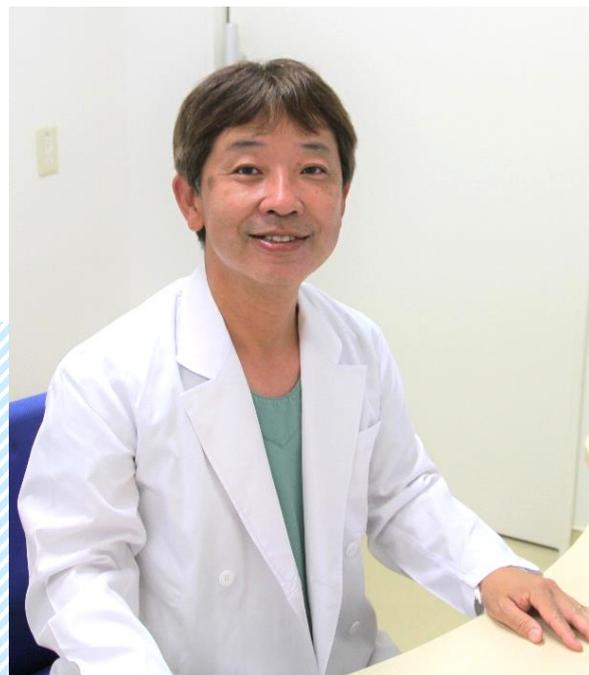
当病院で活動されているドクターに、各専門分野での取り組みや、医療への想いを語っていただきます。

vol.9

産婦人科 診療部長

渡邊 豊治 わたなべ とよはる 先生

専門：産婦人科 得意分野：産婦人科一般、
婦人科腫瘍、低侵襲手術



——以前は沖縄で勤務されていたということですが、十和田に赴任された経緯をお聞かせください。

妻の実家がある十和田で、子供を三世代（祖父母のいる）の環境のなかで育てたいという思いがありました。都会の子ども達のように受験に追われる環境でなく、のびのびと過ごして貰いたいと思っています。それから丹野弘晃事業管理者から何度もお声がけ頂きましたことも、大きなきっかけとなりました。大変感謝しています。

——縁があって十和田市にいらしたということですね。住んでみての印象をお聞かせください。

高い建物が無いので、空がじつに広い。空気も澄み切っています。晴れの日が多くて、いろんな形の雲に太陽のひかりがあたって流れていくさまをぐるっと見渡しながらか、散歩やジョギングをしています。それから、官庁街やあちこちで聞こえる澄み切った水の流れる音に日々癒されています。

——住んでみて、十和田市は子ども達を育てやすい環境と思われますか？

すくなくともいまの私にとっては、ちいさな子供を育てるには有難い環境です。おかげさまで子供は祖父母宅と頻繁に行き来しています（笑）。街が広くて歩きやすいし、運転も楽、コロナのリスクも少ない、と感じます。

——4月に赴任されてから4か月ほどですが、当院での勤務や生活には慣れましたか？

現医療局長で産婦人科の大先輩である富浦一行先生をはじめとして、スタッフの皆さんのご厚意のおかげで、徐々に慣れてきています。診療についてももちろんそうですし、十和田での暮らしかたについても、日々たくさんの耳より情報を頂いて、たいへん感謝しています。

——診療にあたり、こういった方針をお持ちですか？心掛けている事など教えてください。

長く勤務しておられ、現在も大変お世話になっています富浦先生の診療スタイルになっています。また、都会の大病院から沖縄の救急病院までさまざまな性格の医療機関にいましたので、その経験をちょっとだけ生かして何かを付け加えてゆきたい。そして十和田市民のみなさんのお困りごとや心配ごとを少しでも軽くできたらと、微力ながら考えています。

妊婦さんの診察やお産の取り扱いには行いませんが、婦人科全般の診療に加えて、もともとの専門である腹腔鏡を使った傷のちいさな手術や、子宮がんや卵巣がんなどの手術なども、徐々に開始しています。

——先生は手術支援ロボットとして知られる、高度医療機器「ダヴィンチ」ライセンスもをお持ちですね。

ダヴィンチ手術には多くの課題や制約がありますが、時代の流れですので、ニーズがあり、設備のある三沢市立病院との連携など、環境が整えば再開を考えます。

——最後に市民の皆さんへメッセージをお願いいたします。

十和田の街がすっかり気に入っております。最近ではお隣の歴史のある街、七戸にもはまっています。3月末に赴任して以来、風光明媚な街を歩き、走り、川でイワナやヤマメを釣り、山菜取りにも連れて行って頂きました。さらに、コロナがもう少し落ち着けば、レトロな雰囲気のある素敵な十和田の居酒屋で美酒を傾けたい、と思います。市民のみなさま、どうか宜しくお願いいたします。



福岡県出身 慶応義塾大学医学部卒

済生会横浜市東部病院婦人科部長、沖縄徳洲会中部徳洲会病院婦人科部長 など歴任。

所属学会：日本産科婦人科学会、日本産科婦人科内視鏡学会、日本婦人科腫瘍学会、日本内視鏡外科学会

資格情報等：日本産科婦人科学会 産婦人科指導医・専門医、日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍専門医、

日本内視鏡外科学会 技術認定医、日本産科婦人科内視鏡学会 技術認定医（腹腔鏡）、

日本がん治療認定医機構 がん治療認定医、日本専門医機構 専門医、ダヴィンチ S. Xi 術者資格、

医師臨床研修指導医養成講習会受講済、緩和ケア研修会修了